

---

# 犬夜叉～戦国大戦～

まゆら

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

犬夜叉〜戦国大戦〜

### 【Nコード】

N2698A

### 【作者名】

まゆら

### 【あらすじ】

犬夜叉のストーリーを下敷とした、オリジナルストーリーです。

## プロローグ（前書き）

下手な文ですが、気分悪くしないで下さい。

## プロローグ

…  
沈黙が切れた。

プツンと、音を立てたかの様に。

「犬夜叉あ！！裏切ったなあ！！」  
え…？

野をかける白い髪の少年が、一瞬、古い大木に重なった。  
グサリ！！

肩に痛みを感じた白い髪の少年は、ただ…  
ただ微笑むしかなかった。安らかに。

「（良いよ…桔梗になら殺されても良い。）」  
と、心の奥底で思い…そつと目を閉じた。

古い大木に光が射す。葉につたう雨の雫が光る。

そして…

安らかな顔をしながら、眠る白い髪の少年が写し出された。

## 第1話（前書き）

犬夜叉のストーリーや登場人物を知っていらっしやる人しか、読めるようになってません……ご了承くださいませ。

## 第1話

女が居た。

ポツン…

頬に雨がヒタリと伝う。まだ降り始めたばかりの雨の冷たさに、また気が苛立つ。

まるで、人の世の冷たさ…。

冷たいのは、私も同じだな…。

憂鬱だ…

ふわり、浮かぶ黒い雲が、空を支配した。

黒い雲を仰ぐと、りんとした顔に雨が容赦なく当たる。

このまま、流されても良いんじゃないか？私は…。

雨が目を直撃し、あまりの痛さに目を瞑る。

犬夜叉…私を見付けて、見付けてくれ。

その女の名は、桔梗。

チュン…チチチ…

小鳥のさえずりが、光射す森に響く。

風の音と共鳴するかのように、良い響き。

そんな中あたしは目を覚ました。

こんなすがすがしい朝は久しぶり。

チチチ…

小鳥が旋回しながら、あたしの肩にとまる。

ダメよ。

あたしは汚れてる。

あなただつて、殺すかもしれない…、なんてね。  
キラリと光る目をする私。その目はみるみる紅に染まってゆく。  
小鳥は躊躇しながら、あたしから離れた。

ほら。

それでいいの。

醜い大人が言つてたわよ。

“貴女は殺人鬼の子供…そして殺人鬼。早くこの村から出ていけ。”

言われなくても出ていくわよ。

だから、出てきたじゃない？

それでいいのよ。

迫害され続けた。だから私は、あの村を滅ぼした。

それでいいんでしょう？

それはあたしの感情。

そう…あたしは

流れる。

また…殺人鬼の血

蘇っちゃったわ。

だから私は行く。

新たなる殺戮の場を求めて…

「わっ。酷い…。」

口を手で塞ぎ、私は絶句した。

ここは千林村という村。割りに商売が盛んだつたので、商人や旅芸人が多く滞在していた。

しかし、以前の賑わいは完全に消えており、ただ…。

血の後と人の遺体が転がっている。

私はこうゆう光景を見てきたわ…でも。

酷すぎる…。

「おい、かごめ。これは一体…？」

後から駆け付けてきた犬夜叉が私に声を掛けた。

「生き残りは居ないわ。それより、妖怪の匂いはしない？」

「全くだな、こりゃ、人間の仕業だ。」

「…うん。」

酷すぎるわ…！

こんなことしたやつ

絶対倒してやる…！



## 第2話

「千林村が!？」

弥勒様が驚きのあまり目を見開いた。

近くに座っていた珊瑚ちゃんも同じ様に顔を歪める。

私達は今後の計画を立てる為に会議していた。焚き木にとまった炎がやけに燃え上がる。

「そう。」

私はコクンと頷いた。夜の風がヒンヤリ…冷たい。

「千林村って言ったら商売が盛んな村だったよね。」

珊瑚ちゃんが言う。

「商人や旅芸人が集う賑やかな村でしたね、滅ぼさせられる理由がイマイチ…」

弥勒様が首をカクツと傾げた。

弥勒様の様子を伺いつつも珊瑚ちゃんが何か思い出したように…口を開く。

「理由かどうかは分からないけど…あの村に住んでいた、『隣華』という少女が、迫害を受けていたという話を聞いた事がある。何でも殺人鬼の子でね、妖怪退治屋やってた時に殺人の依頼を受けた覚えが…。人間は専門じゃないから断ったけどね。」

「隣華…。」

珊瑚ちゃんの説明を聞いていた弥勒様がボソツとその名前を呟いた。

「法師様？」

弥勒様の沈んだ声を聞いて珊瑚ちゃんが言う。

「いや…隣華という少女…っと、何かの間違いかない。」

弥勒様の呼吸が荒くなってくる。弥勒様は頭を押さえながら…

「…この事件、関わらぬ方が身のためだ。」

苛立った声で言う。

「一体どうしたって言うのよ!？」

弥勒様の異常な発作にビツクリした私は声が自然にあがる。「関わるな…珊瑚…かごめ様…彼女は…。」

「法師様、少し休んで、あたしとかごめちゃんて話しておくから。」  
珊瑚ちゃんが弥勒様を私が持ってきた寝袋まで連れていく。  
程無くして。

「法師様は連れていったよ。」

珊瑚ちゃんが重い足取りで帰って来た。

「…そう。」

ねえ珊瑚ちゃん…弥勒様のあの取り乱した様…おかしすぎるわよね？」

私は夜空に瞬く星を指でなぞるように指す。

「…やっぱりいいや。」

私は珊瑚ちゃんの方に振り向いて笑う。

「…何よ、かごめちゃん！もう…。」

「今日は寝よ、また明日。」

「おやすみ、かごめちゃん。」

「おやすみ！！」

寝袋に戻った私はもう一度瞬く星を見る。  
ひとつ…紅く光る星があった。

もしかしたらね

燐華…彼女に関わったら、私達…

あの

紅の様な血で…

濡れてしまうかもよ

何の根拠もありはしない、でも私は…。  
そんな気がした…。

骨くい井戸…

あたしは骨くい井戸とやらの前に来ていた。特に理由があるわけじゃない。たださまよっていたらここに着いただけ。

「…何…この井戸…呼吸している…。」

トクン…トクン

鼓動が大地を伝わってあたしの耳に入ってくる様な気がした。

トクン…トクン…

あたしの心臓の音と重なる。

…何よ…。

あたしはあまりの気持悪さに後退り…。

“ 燐華…僕を避けないで…”

井戸からは男の声が聞こえる…様な気がする。

“ ねえ燐華…君は殺人鬼なんかじゃ…”

「 なつ何よ! ? 」

気持ち悪い…

何なの!! 何で井戸が話すのよ! ?

“ …なんだ。君は…なんだ。 ”

あたしはその男の声を聞かないまま走り出す。  
どうして。

どうして!!

「 あんな井戸に…あんな井戸なんか…。 」  
いいんだよ。

もう人間なんか演じられない…

あたしは殺人鬼、殺人鬼燐華!!

もう、人間なんかじゃない!!

あたしの真上…

瞬く星の中から…

一筋…

流れる紅い星…

血のようね…

あたしは森の中を走っていく。

キラリ…

紅く光る星を背に置きながら…

### 第3話 悪夢

スー スー スー…

皆の寝息が1つになって、私の耳に入ってくる。特に不愉快とは感じなかったが…やっぱり気になって眠れない。目を開けたら何かが出そうで怖いから開けるに開けられないし。

ざわ…。

草がざわめいた。

音が森に響く。

うわ、怖い…。

私は直感でそう思った。

昔見た怖い映画のワンシーンが蘇る…。自然に脳裏に浮かぶシーン…。

泣き叫ぶ少女が両親に無理矢理森に連れてこられる。少女は両親の顔を見ながら甲高い声を上げた。

「お母さん!!お父さん!!」

両親はクスツ…と笑い見下すように少女を見る。

「何で!!何でそんな目で見えるの!?!」

少女は必死に叫ぶ、その声は忌々しく森に響いた。

「お前は私の子じゃない…お前は殺人鬼だ!!」

少女が驚愕の表情をその童顔に浮かべた。

スラリ…

父親が懐に持っていた剣を光らせた。

「いや!!やめて!!」

いやああああ!!!

グサ!!

鈍い音が鳴った。

鈍い音は容赦なく森に広がる。

紅い血と共に…

草が血を吸収して紅く染まる。

その惨劇を月の明かりが照らした…。

紅い草の上…

両親の首が、2つ仲良く置かれていた。

きゃああああ！？

「うるさいなあー!!」

あれ…この声…

犬夜叉???

「…あれ？」

「随分うなされてたみたいだが大丈夫か？」

「え…夢？」

「夢見てたんだろ？」

「あ…夢か…。」

良かった…。

私いつのまに寝てたのかしら？

まあいつか。

でも、何かとてつもなく、嫌な夢。

最悪な悪夢。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2698a/>

---

犬夜叉～戦国大戦～

2010年10月11日14時34分発行